

鉄道模型の楽しみ方

筑駒電子書籍文庫

たけとら



・まえがき

・まえがき

私の趣味は鉄道模型、航空機のプラモデルで、昔から工作が好きだった。私はBトレインショーティーという鉄道模型の一種からこの世界にのめり込んだ。この度は高校生という視点で鉄道模型の楽しさを伝えたいと思う。鉄道模型といっても、様々な楽しみ方があり、それについては本文で触れるが、私の知らない楽しみ方や意外な楽しみ方もあるかもしれない。私は京王電鉄、西武鉄道がとても好きで、最近では東急電鉄にも興味がある。私はより多くの方が鉄道模型に興味を持ってくれればとてもうれしい。まえがきはこれくらいにして、そろそろ本文に入りたいと思う。

・ 本文

・ 鉄道模型とは

一概に鉄道模型といっても、様々なものがある。実際の鉄道と同じように金属のレールの上を走らせるNゲージやHO、それに小さい頃に遊んだことがある人も多いただろうが、プラレールも鉄道模型ということができる。また、イベント会場などで子供たちが乗っているミニ列車もそうである。要するに、実際の鉄道を模したものが鉄道模型なのである。ここでは主にNゲージの楽しみ方について触れることにする。

・ Nゲージとは

俗に鉄道模型をさして、Nゲージなどというが、実際、Nゲージとはどういうものなのか疑問に思う人も多いだろう。Nゲージでは鉄道と同じように金属のレールに金属の車輪を用いて、車輈を走らせる。また、実はNゲージの「N」は縮尺を示している。Nゲージは幅9 mmの線路を使うため、「nine」の頭文字を取ってNゲージと呼ぶのである。実際の鉄道の線路の幅を軌間といい、標準軌(新幹線、京成電鉄など)で1435 mm、狭軌(JR在来線、多くの私鉄など)で1067 mm、馬車軌間、偏軌(京王電鉄京王線、都営新宿線、都電荒川線など)で1372 mmである。それぞれを9で割ったものが基本的に縮尺となる。つまり、縮尺はそれぞれおよそ1/160、1/120、1/150となる。しかし、実際Nゲージの車輈の縮尺は新幹線で1/160、その他は1/150である。そのため、厳密には狭軌の在来線は縮尺が一致していないが、9 mmという統一された幅の線路で様々な車輈を運転して楽しむのであれば、車輈の縮尺が一致している方がよいと思う。ちなみにHOは縮尺1/87を示し、16.5 mmの幅の線路を使う。欧米ではHOが主流だが、日本では住宅のスペースが欧米に比べて狭いため、Nゲージが主流である。

・ Nゲージの楽しみ方

Nゲージは車輈を動かして楽しむものと思われがちだが、違う楽しみ方もある。もちろん、それが主流だと思うが、車輈を集めてコレクションしたり、沿線風景を模してジオラマを作る、車輈をディスプレイして飾る、また、車輈をキットから組み立てて作り上げる楽しみ方もある。ここでは、まず運転する楽しみ方について述べたい。

・ Nゲージを運転して楽しむには

Nゲージを線路上で運転して楽しむためには、まず、Nゲージがどのようにして動いているのか理解する必要がある。とはいっても、基本的には乾電池とモーターを導線でつないだ回路と変わらない。乾電池に当たるのが、パワーパックと呼ばれる制御機器であり、導線は線路の2本のレールであり、モーターに当たるのが、動力車などと呼ばれる、モーターを積み、駆動システムをもつ車輈である。ちなみにモーターのついてない車輈をトレーラーと呼んだりする。

パワーパックには電源スイッチと方向転換スイッチがあり、これで電流の入切、車輈の進

行方向を制御する。パワーパックにあるつまみをひねることで車輛の速度を制御する。パワーパックと線路はフィーダーと呼ばれる導線で接続され、レールに電流を流している。車輪を通じて、電流の流れているレールから動力車のモーターに電流を流し、車輛を動かす。この点が実際の鉄道と大きく違うところである。実際の鉄道は架線から集電し、モーターに電流を流して駆動させ、車輪からレールを伝って、変電所まで電流が流れ、回路ができています。もしくは、エンジンで駆動する気動車が走っている路線もある。Nゲージでは気動車や蒸気機関車も電気で動く。Nゲージを架線から集電する仕組みに改造し、より実際に近づけてNゲージを楽しんでいる人もいます。次はより具体的なメーカーについて述べる。

・Nゲージのメーカー

Nゲージの線路、車輛、情景ストラクチャー(建物などの模型)を製造し、販売しているメーカーがいくつかあるので、線路、車輛、情景ストラクチャーのそれぞれについてメーカーを紹介する。

・Nゲージの線路について

部屋にレールを一時的に敷いて運転を楽しむ場合(このことを俗にお座敷レイアウトと呼ぶ)、線路の砂利の部分とレールが再現された道床付き線路を使うが、道床付き線路はKATO(関水金属)、Tomix(トミー)から発売されている。道床付き線路は長さや曲線半径が規格化されており、どちらのメーカーのものもジョイントによって、電氣的、物理的に接続されるようになっている。道床付き線路は運転の前に線路同士をつなげて、運転が終わったらそれぞれをばらして、片付けることができる。情景も含めて再現し、運転を楽しむジオラマ(正しくはレイアウトと呼ぶ)と違い、遊ばないときはしまっておけるので省スペースの観点からとても良い。また、線路をどのようにつなげていくか毎回毎回変えることができ、つなげ方を考えるのもとても楽しい。また、高架線も再現でき、高架線にすることで、線路を立体交差させることもできる。

しかし、重要な注意点がある。KATOとTomixではそれぞれの規格が違うので、互換性はほぼない。もちろん、線路の幅9mmはNゲージの規格なので同じである。長さや曲線半径、線路と線路の接続、線路とパワーパックの接続方法にほぼ互換性がないのである。このため、Nゲージを始めるときに、どちらの線路を使うか選択を強いられるのである。実際、KATOとTomixの両方に長所と短所があり、一概にどちらがいいとも言えない。この好みは人によって分かれるところである。私としては、Tomixをお勧めする。主な理由はKATOに比べて、線路の種類が多いことがあげられる。ちなみに、「ほぼ」互換性がないといったのは、KATOから、他社(Tomix)の線路と接続できる線路が発売されているからである。この線路を使えば、KATOとTomixの線路を接続できるのだが、両社の線路を一緒に使うのは、先ほども述べたように長さや曲線半径の規格が違い、調整する必要があり面倒なので、お勧めしない

。Nゲージの線路のメーカーを決めたら、スターターセットと呼ばれる車輛、線路、パワーパックがひとまとめになったものを購入するといいたいだろう。学生には少し高いのだが、2万円ほどで購入できる。車輛についてはこの次に述べる。

・Nゲージの車輛について

Nゲージの車輛は、KATO、Tomix、マイクロエース、グリーンマックスのおもに4つのメーカーが発売している。それぞれのメーカーの特徴は、KATOは比較的値段が安く、有名な車輛なら発売していることが多い。TomixはJRの車輛が多く、アフターサービスがしっかりしている。マイクロエースは発売している車輛の種類が多く、私鉄のマニアックな車輛も製品化している。グリーンマックスはこの4社の中では唯一組み立てキットを発売している。ちなみにどのメーカーの車輛もKATOとTomixどちらの線路も走行できる。車輛を選ぶときは自分の好きな車輛を購入するといいたいだろう。私は京王電鉄が特に好きなので、京王電鉄の車輛ばかり買っている。グリーンマックスに関してはキットを組立てる楽しみがある。これはのちに詳しく述べることにする。

・車輛を作る楽しみについて

先ほど述べたが、グリーンマックスからは組み立てキットが発売されている。これとは対照的に、買った時点で組み立てられているものを完成品と呼ぶ。組み立てキットは完成品より値段が安く、また、なによりも作る楽しみがある。組み立てキットにも様々な種類があり、塗装が済んでいて、組み立てるだけのもの、未塗装で組み立てから塗装まで自分の手でやるものがある。すでにプラモデルなどを組み立てたことのある人などは、ぜひ挑戦してみてほしい。そのような経験のない人でも、未塗装キットそのものは安いので、いろいろな車輛を作ってみて、経験を積んでみてもいいかもしれない。組み立てキットの他の利点は改造がしやすいことである。キットに手を加えることによって、特殊な車輛や編成を再現したり、製品化されていない車輛を作ることもできる。私は価格の安さと作る楽しみから組み立てキットが一番好きである。

・情景ストラクチャーについて

情景ストラクチャーは車輛の走行には直接関係がなく、いわば飾りである。つまり、線路だけ敷いて走らせるのではつまらないので、より実際の風景に近づけるために置くものである。部屋で一時的に線路を敷く場合(お座敷レイアウト)はプラットホームがあれば十分だろう。プラットホームを置くことで、停車を楽しむことができる。この情景ストラクチャーと線路を土台に固定するとレイアウトになる。また、Nゲージを飾るならば情景ストラクチャーを活用すると、よりディスプレイを楽しめるだろう。

・Bトレインショーティーについて

Nゲージから派生したものとして、Bトレインショーティーがある。これは、車輛の長さの縮尺だけ1/2にしたもので、Nゲージの車輛を半分に切ったようなイメージを持つと分かりやすいかもしれない。Bトレインショーティーは塗装済み組み立てキットに分類されるが、接着剤は必要なく、パーツをはめ込むだけで完成する。いわばお手軽板Nゲージである。BトレインショーティーそのものはNゲージの線路を自力で走らせることはできないが、別途Nゲージ化パーツを使い改造すれば、Nゲージと全く同じように走行させることができる。BトレインショーティーはNゲージの車輛の半分の長さなので、狭いところで遊んだり、新幹線や湘南新宿ラインなど長い編成を再現したいときに省スペースが行える。私は今、主にNゲージで遊んでいるが、Nゲージの世界に踏み込むきっかけになったのはこのBトレインショーティーである。

・あしがき

・あしがき

いったんここでこの文章は区切りをつけるが、この文章を読んで、鉄道模型に興味を持ってくれたなら、私はうれしい限りである。この文章では主に初歩的なことを述べたので、さらに踏み込んだことは紹介した会社のホームページなどを参考に調べてみてほしい。

2015年1月9日